

「美学の将来 IV-2」

講師 金田 晋（美学者、広島芸術学会代表委員、広島大学名誉教授）

期間 2020年6月月～2021年3月。毎月1回 計8回 クール制

第1クール（6月、7月、8月）

第2クール（9月、10月、11月）

第3クール（1月、2月、）

曜日・時間 原則として第3木曜日（18:30～20:30）

講義内容： 教養中級（初級の方も理解できるように工夫する。）

受講対象： 研究者、作家、アート・マネージャー、院生、学生、市民、等。

テキスト、資料等： 可能なかぎり前もって準備する。

【目的】美学の世紀である。だが日本語から一般に理解されている「美学」と、ヨーロッパ語の翻訳語としての「美学」との距離は、その学問が 150 年前日本に導入されて以来、埋められな
いままである。 私たちが普通「美学」と言うとき、新カント学派の価値哲学が提唱した真善美
（真＝哲学；善＝倫理学；美＝美学）の哲学 3 学科の一だと考える。これを弁えるのは、帝王
の条件である。だから西周は明治天皇の前でご進講したのである。一方、「美学」と翻訳された
西欧学 *scientia aesthetica* は「感性学」を本義とする。17 世紀、イギリスでは階級制度を否定
して議会政治の典拠を与えたジョン・ロックは、人間の能力差としての生得観念を認めず、生
まれたときはすべて平等で「白紙 *tabula rasa*」とした。そこに感覚によって打ち込まれる経験
の差と考えた。議会民主主義の根底を支えるのは、王も貴族も農民も商人もすべて感覚 *sense*
において平等とする思想があった。それによれば、美学は「民主主義」、「市民主義」の学なの
である。二つの「美学」の差は大きい。

だが、日本にはもう一つの美学がある。神も仏も信じない者が「オレノ美意識ガユルサナイ」
「私の美意識ニ合ワナイ」という、美醜を行動の規範とする風土がある。ここでは美意識が倫理
学である。この美意識も、最近”*aesthetics*”と訳されている。

こうした一義的にきめつけることのできない「美学」をもって、私たちの生きる時代の将来を
考えたい。

第1講 コロナ危機から見える人間社会

金田「寛容ジャーナル」コラム 1-6 月記事をテキストに、「コロナと人間」を考える。

第2講 ベンヤミンの歴史意識

昨年度に輪読したベンヤミン「歴史の概念」から美術の時間再考。

第3講 星座の美学

暦 星座 Konstellation の美学。

第4講 暦の美学

「旧暦の美学」

第5講 梶の部屋コレクションに見る広島美術の戦後（1）

第6講 梶の部屋コレクションに見る広島美術の戦後（2）

第7講 遊びの美学

第8講 視覚の美学